

資料 3. 評価基準の例（口頭発表 B1）

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	インタビュー内容について、簡単な短いプレゼンテーションができた。	準備した内容について、聞き手がよく分かるように、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができた。また、要点をだいたい正確に述べることもできた。	はっきりとした、構成のしっかりしたプレゼンテーションができた。また、要点に、関係のある説明を付け加えながら話すことができた。
意見の伝え方	意見を述べることもできた。	意見や主張したいことについて、理由や根拠を説明できた。	述べたい点をうまく強調し、重要な関連のある内容をくわしく述べて、わかりやすく論じることができた。
話の進め方	接続表現（「そして」「しかし」「だから」など）を使って、簡単な文をならべて話した。まとまりは、あまりはっきりしなかった。	まとまりがはっきりしていた。構成はシンプルだった。	文と文、段落と段落の関係を考えた体系的な構成だった。
流暢さ	言い直したり言いかえたりすることがあったが、1つ1つの言いたいことはわかるように話せた。	文法やことばをまちがえた時、少し時間があったり言い直したりしたが、全体的に、言いたいことはほとんどわかるように話せた。	だいたい一定の速さで、止まらずに話すことができた。
発音	ときどき、聞き取りにくい発音があったが、だいたいわかるぐらいははっきり話せた。	たまに、発音やイントネーションのまちがえがあったが、だいたいよくわかるぐらいははっきり話せた。	はっきりした自然な発音とイントネーションだった。
ことば・表現	ほかの言葉を使ったほうが良いと思うこともあったが、言いたいことはわかるようなことばを使うことができた。	同じ言葉をくり返したり、まわりくどい表現があったりしたが、いろいろなことばや表現を使うことができた。	ことばがとても豊かに言いたいことを述べていた。同じことばを何度もくり返さないように、いろいろな表現を使うことができた。

資料4. 評価基準例の基になった Can-do 例（口頭発表 B1 目標）

	もう少し！	できた！	すばらしい！
活動	CEFR【講演やプレゼンテーションをする:A2.1】身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。	CEFR【講演やプレゼンテーションをする:B1】自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べるができる。 JF【経験や物語を語る:B1】自分の国について学ぶ集まりで、あらかじめ準備してあれば、自分の国や町の様子などについて、まとまりのある簡単なプレゼンテーションをすることができる。	CEFR【講演やプレゼンテーションをする:B2.2】はっきりとした、体系的に展開したプレゼンテーションができる。その際重要な要点や、関連する詳細事項を補足的に強調することができる。
意見の伝え方		CEFR【論述する:B1.2】意見、計画、行動について短い理由や説明ができる。	CEFR【論述する:B2.1】適切に要点を強調し、重要な関連のある補足事項を詳しく取り上げて、整然と論拠を展開できる。
話の進め方	CEFR【一貫性と結束性:A2.1】“and”“そして”、“but”“しかし”、“because”“～だから”のような簡単な接続表現を用いて語句の間に繋がりをつけることができる。	CEFR【一貫性と結束性:B1】短めの、単純で、バラバラな成分をいろいろ結び合わせて、直線的に並べて、繋がりをつけることができる。	CEFR【一貫性と結束性:B2.2】複数の考えの間の関係を明確にするために、さまざまな結合語を効果的に使うことができる。
流暢さ	CEFR【話しことばの流暢さ:A2.2】話し始めて言い直したり、途中で言い換えたりすることが目立つが、短い発話であれば自分の述べたいことを理解してもらえる。	CEFR【話しことばの流暢さ:B1.2】自分の表現したいことを、比較的容易に表現できる。言語化する際に、間があいたり、「袋小路」に入り込んだりはするものの、他人の助けを借りずに発話を続けることができる。	CEFR【話しことばの流暢さ:B2.1】比較的一定の速さを保って発話を行うことができる。言い方の型や表現を探す際に詰まることがあっても、目立って長い間があくことは少ない。
発音	CEFR【音素の把握:A2】話の相手から時々、繰り返しを求められることもあり、明らかな外国語訛りが見られるものの、大体的場合、発音は理解できる程度にははっきりとしている。	CEFR【音素の把握:B1】時には外国語訛りが目立ったり、発音の間違えもあるが、大体よく理解できるくらいに発音は明瞭である。	CEFR【音素の把握:B2】はっきりとした、自然な発音とイントネーションを身につけている。
ことば・表現	CEFR【使える言語の範囲:A2.2】たいいていの場合、言いたいことを内容的に妥協・制限したり、言葉を探したりする必要があるが、予測可能な日常的な状況に本人が対応するために必要な、基本的な言語のレパートリーを持っている。	CEFR【使える言語の範囲:B1.1】(略) 語彙的な幅の狭さのために発言内容に繰り返しが生じたり、なかなか内容を言語化できなかったりすることもあるが、多少詰まったり回りくどかったりしても、家族や趣味や、興味のあること、仕事、旅行、そして時事問題などについて、述べるだけだけの語彙を持っている。	CEFR【使える言語の範囲:B2.2】自分自身が言いたいことを明確に述べることができ、その内容を制限している感じを与えることはそれほどない。